

鳥 取 会 報

第 14 号

2006年1月



北栄町のシンボルとなった風車

目 次	年頭のごあいさつ	2~3	安全だより	18
	各シルバー人材センター理事長の抱負	4~9	会員の広場	18
	平成17年度臨時理事会開催	10	講習会に参加して	19~21
	平成17年度事業実施状況	11	鳥取県の最低賃金	22
	平成17年度シニアワークプログラム事業実施状況	12	公益法人会計基準の改正	23
	健康シリーズ⑭	13~15		
	シルバー人材センターの紹介	15~17		

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

新年のごあいさつ



(社) 鳥取県シルバー人材センター連合会
会長 宇野 治 巳

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新春をお迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

当シルバー人材センター連合会は、会員の皆様をはじめ関係者の皆様の変わらぬご支援助とご協力をいただき、事業が順調に推移しておりますことを心から厚くお礼申し上げます。

今後、更に少子高齢化が進展するなかで、人口の減少も同時進行し、とくに本県は全国に先駆けて高齢化が進み、将来労働力不足が懸念されているところです。シルバー人材センター会員は、地域社会の「担い手」として地元高齢者の生活支援活動をはじめ、各種にわたる要請に応じ地域の安全確保と安心づく

りを目指し活動しています。

本年は、シルバー事業の法的根拠となった「高齢者等雇用の安定等に関する法律」が交

付されてから、ちょうど二十周年目の節目の年にあたりますが、シルバー事業関係者に課せられた社会的責務は、ますます重要となつてまいりました。その一つは、数年前より言われてきました、いわゆる二〇〇七年問題の受け皿づくりでございます。関係者皆様のご努力により、シルバー事業の機能の大幅な見直し改正が行われ、幅広い分野で職域の拡大が図られているところでございます。また、連合会が行う人材派遣事業も多様化する就業ニーズに対応した新しい働き方の一つとして、

有効にご活用いただきますようお願いいたします。

高齢者が、経済的な理由での社会参加や或いは心身健康のためなど就労ニーズは、それぞれ異なっている、ある限られた就業体験ではあるが、高齢者の持っているキャリアと経験や知識が十分に活用され、地域社会に役立つ喜びを直感できるなど、働く高齢者を活性化させるためのシルバー事業は、まさに人生八十年型の新しい発想による高齢者事業であります。

シルバー連合が、シルバー人材センターとともに実施しているこの事業に対しまして、関係者皆様の引き続きのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後にになりましたが、皆様のご健勝を祈念し、新年のごあいさつといたします。



新年のご挨拶



鳥取労働局職業安定部

職業対策課長 能見克人

新年あけましておめでとうございます。

シルバー人材センター事業に携わっております皆様方におかれましては、新春を健やかに迎えのとお慶び申し上げます。

また、平素から労働行政に対しまして格別なご理解・ご協力を頂き厚くお礼を申し上げます。

さて、最近の雇用失業情勢は、厳しさが残るものの、全国的には総じて改善が進んでいるところではありますが、鳥取県におきましては依然と厳しく、特に中高年齢者を取り巻く雇用環境は極めて厳しい状況で推移しています。

このような状況の下で、県下のシルバー人材センター事業が着実に進展しております。

とは、皆様方の熱意とご努力の賜物と心より感謝申し上げます。

我が国の人口は、高齢化が進行しており、遠からず世界に例を見ない水準の高齢社会が到来するものと見込まれています。鳥取県におきましても「統計でみた鳥取県」（平成十七年度版）で見えますと全国で十番目に高齢化が進んでおり、県人口の二三・四％を六十五歳以上の方が占めているなど、少子高齢化が他県より進んでいるところであります。

また、我が国の高年齢者の就業意欲は国際的にみて非常に高い水準となっています。生活していく上での収入を得るためという経済的動機が、就業意欲を高めている最大の原因であります。その一方で、社会参加に對す

る意欲、就業を生き甲斐とする志向などの意識が強いことも要因の一つとなっています。

いずれにいたしましても、今後、労働力人口の減少が見込まれる中で、我が国経済の活力を維持していくためには、高年齢者の能力の活用を図ることが重要な課題となっております。

こうした中で、シルバー人材センター事業は、地域社会の日常生活に密着した仕事を確保・提供し、高年齢者の多様な形態による就業機会の拡大・生きがいの創出・地域社会の活性化を図るなど、高齢者雇用就業対策の一環として、事業活動を推進していくことが強く望まれているところであります。労働局といたしましては、今後とも事業の拡充発展に支援をしてまいり所存ですので、関係の皆様方におかれましても、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、社団法人鳥取県シルバー人材センター連合会の今後益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。



シルバー人材センター 理事長の抱負



(社)鳥取市シルバー人材センター
理事長 歳岡輝巳

新年明けましておめでとうございます。
新しい春を迎え連合会員皆様には、ますます
ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、現在のシルバー人材センター事業の
運営については、諸問題が山積しております
が、直面している事項として「適正就業対策」
及び「安全就業対策」さらに「シルバー派遣
事業の体制整備」、昨年よりの「指定管理者
制度への対応」、そして、二〇〇七年にはシ
ルバー年齢に達する「団塊の世代への対応」
等、いずれも重要な検討課題であります。

各拠点とも「誰でも、何処でもシルバー会
員になれる」ことを目標に事業を展開してい
ますが、市町村合併により、広範囲になった
地域での就業確保にシルバー力の発揮が要求
されます。会員確保とともにこれらを推進し
て行くためには、現会員皆様の経験と知恵の

参画がもつとも効果的であると思えます。

経済情勢は引き続き冷え切った状況の中、
シルバー事業は小さな金額の積み上げですが、
確実に地域社会、延いては日本経済に貢献し
ていることは間違いないと考えます。行政機
関におかれましてはこれまで以上のご理解を
賜りたいと思えます。野菜や食品だけが「地
産地消」ではありません。県民も地域の発展
のための目標を持っており、地元での労働力
市場の確保をお願いいたします。

最後になりましたが、「鳥取県」は自然災
害も少なく、風光明媚な実にすばらしい県で
す。その、ふるさと鳥取県のために、労働力
の活用及び、働く場所を提供し、地元の発展
のためにシルバー人材センターは大いに協力
していることを申し上げます、抱負といたします。



(社)米子広域シルバー人材センター
副理事長 河越庄市

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新しい年を寿ぎお迎
えのことと存じます。当シルバー人材センタ
ーは会員、発注者、行政等関係各位、皆様の
暖かいご支援ご協力をいただき、着実に事業
運営がおこなわれていますことを心から厚く

お礼申し上げます。

さて、昨年三月米子市と西伯郡淀江町が合
併し、四月旧淀江町シルバー人材センターと
統合で新たな広域シルバー人材センターに移
行いたしました。区域が拡大しご期待に応え
るよう取り組んでまいりたいと思えます。

現在、補助金交付額の削減や高齢者向きの
仕事の確保が困難になるなど、今までも増
し厳しい状況下では一層の自立化と効率化が
求められており、限られた財源のなかでの運
営基盤の強化拡充こそが当面の課題となつて
おります。

そこで「自主・自立・共働・共助」の基本
理念を踏まえ、会員の運営参画の促進や近年
取組みの自主的なボランティア活動、趣味・
文化活動ほか多様な相談、情報提供等幅広い
社会参加活動の推進など多様な事業メニュ
ーの構築を、更に積極的に取り組んでまいりた
いと考えております。

関係者皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上
げ、新年のごあいさつといたします。



(社)倉吉市シルバー人材センター
理事長 野島 完

新年明けましておめでとうございます。

皆さまには、二〇〇六年の新春をお健やかに
お迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、今年度の事業運営は、厳しい状況の中
であり、倉吉市を始め国県並びに社団法人鳥取
県シルバー人材センター連合会のご指導ご支
援、さらには、地域の方々のご理解ご愛顧によ
り、会員数、受注件数、契約金額とも昨年同期
を上回る状況で推移しているところでありま
す。

しかしながら、国・地方の財政状況や年金
問題など大変厳しい状況下の中にあつて、少
子高齢化が急速に進み、特に、四人に一人が
高齢者となり、未曾有の超高齢者社会に突入
いたします。

そのため、これからは、高齢者が単なる福
祉の受け手として、社会から支えられるので
はなく、自らが社会の一員として、これまで
培ってきた知識、経験、技能を生かし、社会
の担い手として活躍していかなければなりま
せん。

現在、倉吉市の人口は約五万三千人、その
うち、六十歳以上の人口が約一万六千五百人
であり、当センターの会員数は約四百
四十人で、倉吉市の六十歳以上の人口に対す
る当センターの入会率は二・七パーセントと
なっています。本年は、会員数五百人で、
入会率三・〇パーセントを目指し、強固なセ
ンター運営を目指して参りたいと考えている

ところです。



(社)境港市シルバー
人材センター
理事長 足立郁馬

日頃、何かにつけてお世話になり、ご指導
に預かっている県シ連の各位に敬意と感謝を
表し、二〇〇六年・平成十八年「丙戌」の迎
春を、先ず、言祝ぎたいと思います。

現在、日本人の平均寿命は二十年連続で世
界一であり、高齢化率は二十五%を超えるで
あろうとの予想もなされております。

今後益々、高齢者の存在感は飛躍的に増大
し、名実共に社会の担い手となる変革の時代
を迎えようとしております。いや、既にその
現実の中に漂い乍ら、生かされております。

還暦が過ぎると、もう使用済みのように扱
われていた人生は過去の事となりました。

自ら趣味やスポーツを通して積極的に活動
したり、習得した豊かな知識や優れた技を次
世代に還元し、地域社会の担い手として汗を
流し、体力と気力がある限り、生涯現役を貫
く事が高齢者の生き様であり、そこにシルバ
ー人材センター事業の意義もあります。

「人間は加齢によって老いるのではない。
夢と理想を失った時に老いるのだ」との言葉

が頭をよぎります。第二の人生に希望を抱く
事こそ、老いて光る生き方の一つではなかる
うかと思えます。唯、歳をとって良かったと
思える時代なのかは別として……。

シルバー事業発展のために一層のベストを
尽くさねばと、「喜寿」を迎えた年頭に当た
り自戒しているこの頃です



(社)南部広域シルバー
人材センター
理事長 中川正昭

新年明けましておめでとうございます。

当センターは会員相互のふれあい・親睦を
深め、シルバー事業の円滑な推進を図ること
を目的に、新春恒例の「ゆったり旅行」を一
月二十九日に実施します。コースは今年も出
雲大社詣りと湯の川温泉の旅。最近このコー
スが定着しましたが、新春にあたり神のご利
益を授かり今年も元気で頑張ろうとの願いも
あつて、会員皆さんに大変喜ばれています。

さて、山陰地方もようやく景気回復の兆し
が見えはじめたと報じられています。一方で
当センター管内でも少子高齢化が進行し現役
労働力の減少と高齢化に起因し地域活力の維
持向上がこれからの大きな課題であります。

このような動向にあつて高齢者が地域を支

える人材として活躍する社会の構築が不可欠であります。また今後は働く意欲のある中高年齢者の増加も予想され、シルバー事業への期待と需要は年々増加するものと考えます。そのため今年には現存の四支所が一層連携し就業機会の創出と新会員の加入促進に努め、新たな就業需要に適切に対応していきたいと考えます。私どもは地域に根ざしたセンターを目指し行政当局及び連合会、更に地域の皆様方のご支援、ご協力を賜り地域の発展に資して参りたいと存じます。



(社)智頭町シルバー
人材センター
理事長 石谷文一

平成十八年は記録的な豪雪に見舞われての年明けとなり、昨今の厳しい財政状況とも相俟ってわがセンターにとっても厳しい年になるであろうことを痛切に感じております。

景気は回復傾向にあるといわれながらも、私たちの周辺を見渡す限り他所事のようにしか思われず、シルバー事業の運営も益々厳しいものになることが予想されますがへこたれるわけには参りません。こんな時だからこそシルバーならではの経験を生かし、能力技術を駆使して地域社会の担い手としての役割を

果たし、シルバーの底力を見せる絶好の機会でもあると思っております。

これからは行政からの支援に頼ることより行政から頼られる、そして行政を動かすシルバーに変身し、行政がシルバー事業の地域社会に対する貢献度を再認識して、福祉事業の重点施策として取り組むよう強く働きかけることが必要であろうと考えています。会員の皆さん、共に頑張りましょう。



(社)岩美町シルバー
人材センター
理事長 谷口幹彦

岩美町シルバーは、平成九年に組織設立以来、会員の英知を結集し、運営努力を続けてきた。平成十四年、その実績が認められ、社団法人としてスタートを切り、現在に至っている。

この間、当シルバーの役員、会員の一致結束した努力と、岩美町をはじめとする関係機関の支援、さらには地域社会の理解、協力もあり、事業は順調に推移してきた。平成十六年度末には、年間受託件数八九四件、事業実績高三二、六六四千円をあげるまでとなり、年々発展増強の一途をたどっていることは喜ばしい限りである。

超高齢化社会が到来した中であって、仕事にチャレンジする会員の役割は、益々重要であり、町民の要望に応えるシルバーパワーの社会参加が、少子高齢化社会の将来を明るくする一助になるものと確信している。

昨年、事業進展をめざす取組みとして、会員の増強を図ったが、趣旨を理解していただき、四十名の新加入を得て、現在一九七名の会員組織をもつシルバーへと成長してきた。

本年はこれらの実績をふまえ、会員の就業意欲の高揚、多様な就業機会の確保、新しい就業内容の開拓、互助会事業の推進などの課題に向け、更なる努力を傾注するという決意を新たにしているところである。



(社)湯梨浜町シルバー
人材センター
理事長 磯江末夫

二〇〇六年の初頭にあたり、ご挨拶申し上げます。国内の諸々の状況は、小泉内閣の、三位一体の政治改革が総仕上げの年となり、国民の期待と不安は入り乱れ、益々混沌として来ています。

特に少子高齢化の現象は、私達高齢者にとって、年金、医療制度の変更に合わせ、各自治体に対する財政の圧迫が、そく私達高齢者

の諸施策の改悪につながっています。

又私達シルバー人材センターの組織に於いても、設立の主旨である「自主、自立、共働、共助」によって日々の生活に希望をもち、働く意欲を高揚し、ひいては介護保険に少しでもお世話にならない様努力しているところでもあります。

シルバー人材センターの組織運営も、一般業者との競争ばかりが激しくなり、希望の持てる年にならないように思います。

昨年の町村合併により、担当地域は広域となり町民各位のシルバー人材センターに対する要望も、多種多様となりつつあります。それに対し町の財政支援に合わせ、事業に対する協力も思うにまかせず、地元企業との関係も厳しくなってきました。従って今後の組織運営にあたっては、役員と会員との連携話し合いを密にし、特に会員皆さんの健康は勿論、傷害事故には十分留意し、シルバー人材センターが地域高齢者の働く楽しい場所として、町民から期待と要望される組織として、充実するよう努力したいと考えます。



(社) 琴浦町シルバー人材センター

理事長 足立慎夫

琴浦町の誕生に伴って、シルバー人材センターも合併し、平成十七年四月一日より、新規国庫補助団体としての一步を踏み出しました。その間、国・県・町のご理解とご指導を仰ぎ、特段のご支援とご高配を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

国の経済情勢の低迷が続き、雇用情勢も一段と厳しさを加えております。今後は、山積している課題の一つ一つに取り組みななかで、いかにして地域社会に貢献することができかを念頭に、会員の増加と事業の拡大に努め会員の技能と資質の向上を目指してまいりますと存じます。そのためには、更なるご指導とご支援をお願い申し上げますと同時に、当シルバー人材センターも、会員の知識・技能・経験を生かして積極的に対応し、自らの生きがいの充実と社会参加に努めることで、活力の溢れた共生の町づくりの一役を担いたいという決意を新たにしております。

景気の低迷に加えて、指定管理者制度の導入とか、大手の派遣会社の設立の余波など、厳しい条件が増すばかりで、仕事の確保も容易ではありません。今後、基盤の強化に努め

地域への貢献にいそしみ、町民の方々の暖かい理解と深い信頼と高い評価をいただくべく、いっそうの奮起に努め、「自主・自立・共働・共助」を合言葉に、全力を傾注してまいりますと存じます。さらなるご高配を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



(社) 北栄町シルバー人材センター

理事長 岸田忠良

昨年初頭、北条・大栄町の町村合併を前にして、広域シルバーとして活動して参りましたが、昨年十月一日に両町が北栄町として正式に合併されました。

これに伴い、北栄町シルバーとして組織の改編、発足いたしました。

本年は会員の増強、事業実績の向上を図り就業機会の増加に向けて、更なる飛躍の年にと念じて居ります。



(社)大山町シルバー
人材センター
理事長 林原彦一

新年おめでとう御座居ます。

昨年は予想もしなかった積雪と耐震強度偽装問題で年が暮れました。又「想定外の範囲内」と云う言葉が流行語大賞に選ばれましたが、それとは裏腹に今私達の見の廻りは「想定外の範囲外」の事が充満している様な気がします。もしかしたら今年は「想定外」が流行語となるかも知れません。

今少子高齢化が急速に進んでいます、それに依り私達の日常生活に様々な影響が出そうです。医療費の負担増や、年金給付額の引き下げ等が行われようとしています。

一方国の莫大な借金で抜本的な行財政改革が行われつつあります。それに連動して今後種々の増税は確実です。補助金の削減もその一つです。これ等の事が私達シルバーにも直接的に影響を及ぼしそうです。

当社(社)大山町シルバーは昨年四月法人の認可を受けました。当然と思っていた国の補助金は認められません。県の特例助成と町の補助金で何とかやりくりして来ました。今年は今までの所全く不透明です。国の補助金が出るのかどうか分かりません。県の助成も見込

めません。町の補助金も減額されそうです。作業量の拡大も期待出来ません。不安定要因をかかえたまま新年を迎えました。残念乍ら今年の抱負を語る以前に、当シルバーの存続に思いをはせなくてはなりません。

こんな環境の下で地道な取組を進め乍ら色々模索して春(苦境からの脱却)を待つ年になりそうです。



八頭町シルバー
人材センター
理事長 村田敏雄

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに輝かしい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

八頭町も昨年三月三十一日に郡家町、八東町、船岡町の三町が合併して二万人規模の町が誕生しました。色々の組織も逐次合併を終えています。八頭町シルバーは旧郡家町が主体で八東町、船岡町には存在していませんでしたが、共存的シルバーの拡大を計り共栄が必要と、会員の募集をしました。住民の方にシルバー人材センター事業を説明し認識して頂く事が先決と、地区毎の老人会長さんに寄って頂き説明と会員募集の協力をお願いしました。

全戸にちらしの配布、又三地区で福祉祭りがあり、その都度シルバーの三役がハッピー姿でちらしの配布宣傳等を行いました。入会者も増えて船岡地区で二十名、八東地区で五名となり、早速理事と入会説明会を持ち、又障子張りや松の剪定指導会の開催と慌ただしい一年でした。

十八年度には早期に会合を開き会員の交流と親睦を計り、八頭町シルバー人材センターの拡大事業を推進発展させるよう念願する次第です。皆様のご指導をよろしく願います。



江府町シルバー
人材センター
理事長 宇田川 潔

新春をお慶び申し上げます。

健康で働けることに感謝し、「安全」を第一に掲げ、受注事業の内容充実を命題に、さらに会員相互の連携を深めながら、自己啓発に励み地域社会から信頼され愛される、シルバー人材センターを目指して頑張ります。





日野町シルバー
人材センター
理事長 牧 智也

輝かしい初春をお迎えのことと存じます。昨年は県連合会の色々なご指導をいただき有難うございました。

社会情勢は、私たちが育った時代とは様変わりして驚くことしきりですが、その波が、山間にも押し寄せてまいり、高齢化・少子化が進行している地域です。そのため会員自体が高齢化してきており、街部には生産拠点が無いため若いうちに町外に出て就労し、過去は定年等になれば帰郷するというスタイルでしたのに最近はその崩れだし、人口減少の一翼を占めている現状です。この現状ですの、新会員の加入促進にここ二・三年努めて参りましたが、なかなか思うようになりません。本年も先ずこれに重点を置かなければならないと考えています。次に、色々な作業をしておられる会員の方々の生き生きとした姿を見るにつけ、現業の方々と棲み分けのできる、そして夫々の過去の経験則を踏まえてできるような、仕事の開拓に努める必要があると考えています。今後ともご指導を御願います。

日南町シルバー
人材センター

理事長 大下 勇

明けましておめでとうございます。皆様お揃いで元気に新年をお迎えられた事と思います。

昨年は十二月始めより日南町は昭和三十八年の豪雪以来の大雪にみまわれ除雪に大変ご苦労された事と思います。

県下一高齢化が進む当町の現在、高齢者が生き生きと活躍し能力を最大限に引出し社会参加する人材センターの目標に向かう原点にもどり共に助け合い乍ら仕事を分かち合い元気に健康で楽しく自立経営を目指し頑張って行きたいと思えます。

会員の皆様のご多幸とご健康をお祈りし新年のごあいさつといたします。



三朝町シルバー
人材センター
理事長 西村 武津美

新年明けましておめでとうございます。

町村合併の進む中、三朝町は合併しなくて単独での町です。それだけに会員も少なく、

色々問題もあります。少人数ではありませんが、会員一同それなりに技術をいかして事に励んでいます。設立して年数も三年ですがそれでも会員の努力によりそれなりの成果になりました。

なによりも、会員の方々の話が出来又ボランティア等を行い全員が集まる時は色々な話がはずみ盛会です。

今後も少人数でも、地域の為になる、人材センターの出来る事をつづけて行きたいと思ひ会員の皆様と共に健康につとめて行き人材センターの役割としたいと思っております。



あけましておめでとうございます。
県シルバー連合会のスタッフ一同です。
今年もよろしく願い申し上げます。

平成十七年度 臨時理事会の開催

第一回臨時理事会

平成十七年九月七日(水)倉吉市において、平成十七年度第一回臨時理事会が開催されました。

審議された議案は次のとおりで、いずれも原案どおり承認されました。

- 第一号議案 新規会員加入について
- 第二号議案 シルバー人材センター事業への支援要請文(案)について
- 第三号議案 連合会会費値上げについて
- 第四号議案 連合会顧問の推薦について
- 報告事項 連合会役付理事の互選について

なお、①シルバー事業への支援要請文については、九月十四日(水)宇野県シ連会長、仲村常務理事兼事務局長が全シ協定期総会で採択された決議文を添えて、鳥取県知事及び鳥取労働局長に要請を行いました。②連合会会費値上げについては、理事会に「連合会会費検討部会」を設置することを決定し、十月五日(水)と十一月九日(水)に部会を開催、部長に(社)鳥取市シルバー人材センター理事長 歳岡氏を選任した後、会費の値上げについて検討が行われました。③連合会顧問の推薦に

ついでには、平成十七年六月の通常総会をもって退任された前県シ連会長 川口貞良氏の推薦を決定。九月七日付けで顧問に委嘱されました。



第二回臨時理事会

平成十七年十二月六日(火)午前十時三十分から倉吉市において、平成十七年度第二回臨時理事会が開催されました。

審議された議案は次のとおりで、歳岡連合会会費検討部会長から検討結果の報告を受け

て議論後、原案どおり承認されました。

なお、この議案は平成十八年三月開催の通常総会に付議することが決定されています。

第一号議案 連合会会費規程の改正案について

協議事項

- 一 適正就業対策について
 - ①長期就業の解消について
 - ②公共事業(公園管理等)の業務委託契約について
- 二 定款に基づく承認事項について
 - ①新規会員の入会承認について
 - ②役付理事の互選の適正について



平成十七年度 事業実施状況

理事長・事務局長合同会議

平成十七年十二月六日(火)午後一時から倉吉市において、鳥取県シルバー連合 理事長・事務局長合同会議を開催しました。



議題は次のとおりで、現下の厳しい情勢を認識するとともに、シルバー事業の諸課題を検討する場がもっと必要であることが提起されました。

- 一 連合会費規定の改正案について
- 二 適正就業対策について
- 三 定款に基づく承認事項等について

四 当面の諸課題について

- ① シルバーが行う労働者派遣事業について
- ② 指定管理者制度の対応について
- ③ その他

会計業務等研修会開催

平成十七年十二月十三日(火)倉吉市において、各センターの担当職員を対象として、会計業務等研修会を開催しました。



講師の氏原謙一氏(衣目八公認会計士事務所)から、「新公益法人会計基準対応について」と題してわかりやすい説明をしていただきました。参加者一同の漠然とした不安感も薄らぎ、四月実施に向けて有意義な研修会となりました。

「いきいき健康福祉まつり

2005」への参加

高齢者の生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりを促進し、積極的な社会参加の契機となるようにとの趣旨で、平成十七年八月六日(土)鳥取県社会福祉協議会主催の「いきいき健康福祉まつり」が、米子市の県立米子産業体育館で開催されました。当連合会も後援団体の一員として西部地区のシルバー人材センターとともに参加し、広報資料の配付、パネルの展示、特産品や会員手作り作品の展示即売など来場した多くの地域住民とのふれあいを通じ、効果的な広報活動を行うことができました。



平成17年度シニアワークプログラム事業の実施状況

シニアワークプログラム事業は、国からの委託事業として、高齢者の雇用・就業機会の確保を促進することを目的に、技能・介護講習を実施しております。

平成17年度は技能講習12回、介護講習では2級課程を4回計画し、実施しています。

技能講習第1種

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
パソコン（中級）	倉吉会場	06.21～06.29	7日	20名	20名	18名
観光ガイド養成	智頭会場	07.05～07.13	7日	24名	23名	19名
接客サービス	鳥取会場	07.11～07.15	5日	25名	22名	14名
パソコン（中級）	境港会場	08.01～08.09	7日	22名	20名	19名
左官・ブロック積	鳥取会場	09.01～09.08	6日	16名	14名	13名
植栽管理	米子会場	09.13～09.22	7日	45名	24名	23名
塗装	倉吉会場	10.17～10.21	5日	16名	16名	15名
オフィスクリーニング	米子会場	10.24～10.28	5日	21名	19名	19名
パソコン（中級）	米子会場	11.14～11.22	7日	33名	21名	20名
パソコン（中級）	鳥取会場	11.24～12.02	7日	35名	20名	20名
竹炭製造	倉吉会場	12.05～12.14	7日	21名	15名	15名
接客サービス	米子会場	01.23～01.27	5日	名	名	名

介護講習第1種「2級課程」

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
訪問介護員養成講座	米子会場	06.28～08.08	24日	30名	20名	19名
訪問介護員養成講座	倉吉会場	08.22～10.03	24日	28名	20名	20名
訪問介護員養成講座	鳥取会場	09.27～11.11	24日	40名	20名	18名
訪問介護員養成講座	境港会場	10.18～11.30	24日	28名	20名	19名



求人事業所説明会の実施

(合同面接会)

平成十七年十一月二日(水) 米子・境港公共職業安定所の後援、(社)鳥取県ビルメンテナンス協会の協力により、オフィスクリーニング講習の修了者及び公共職業安定所の高年齢求職者を対象として、求人事業所説明会(合同面接会)を実施しました。

当日は、(社)鳥取県ビルメンテナンス協会西部支部会員企業五社にご出席いただき、十二名の求人に対し求職者三十名の参加があり、面接の結果二名の採用が決まりました。



健康シリーズ⑭

メタボリックシンドロームと プレニッドに刻まれた言葉



山陰労災病院 第三循環器科部長

太田原 顕

最近「メタボリックシンドローム」(内臓脂肪症候群)という言葉が耳にする機会が多くなりました。今日は「いったいどうしてこの言葉が注目されるようになってきたのか」という点について病気・疾患の捉えかたという観点から説明を加えてみたいと思います。

■大きな病気から内臓肥満症候群の誕生

私たちが遭遇する最も脅威を感じる病気は、突然に襲われて身体的自由を奪うような結果をもたらすもので、通常これらは「大きな病気」と称されます。それらは自分自身だけでなく周囲の人々の暮らしにも大きな影響を及ぼすため社会的な影響は計り知れません。たとえば脳卒中・心筋梗塞・眼底出血(失明の恐れ)・手術が必要な病気やけがなどがそれに相当します。これらの病気の場合、自分自

身に問題がその時点で表出していますから誰にも理解しやすく、患者としてあわてて医療機関へ受診されることも多く、また医療機関においてもすばやい対応が要求されます。

これら「大きな病気」のうち脳卒中・心筋梗塞・眼底出血・腎硬化症(悪くなれば透析になる)についてはいずれも動脈硬化による血管の破綻によるものであることが解っていました。そして糖尿病・高血圧・高脂血症といった疾患を抱えている人にこれらの病気が多いことや、疾患の治療が「大きな病気」を減らすことがわかってきました。しかし残念なことに糖尿病・高血圧・高脂血症はいずれも自覚症状がきわめて乏しいために、私たちが病気として理解することが難しいのです。実際に日々診療する中、「大きな病気」で受診された患者さんから「えらくないからほっといた」とか「自覚症状が無かったから検診で異常を言われたけど放っておいた」と言われる事は決して少なくありません。「病気であるのに五感では病気と感じられないこと」がこれら疾患に共通する「大きな病気への誘い」なのです。

さらに高度経済成長に伴って過食・肥満という現象が先進国で認められ、これら疾患の増加という事象が明るみになってきました。また肥満を解消することがこれら疾患の治療に有効であることも報告されています。現在

では先進国のみならず中国やインドなどでも経済成長に伴って爆発的に肥満が増加し、皮肉なこと世界で20%の人々が飢えに苦しむつつ20%の人が肥満で困っていると云われる程になりました。

これまで生活習慣病と称されてきた高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満はバラバラの要因で引き起こされると思われてきました。しかし近年『死の四重奏』や『シンドロームX』や『インシュリン抵抗性症候群』という形で、個人に複合して合併しやすい疾患であることも知られてくるようになりました。さらにここ数年くらいの研究により実はこれらの疾患すべてに内臓脂肪が大きく関与しているということが分かってきました。こうして過食がベースとなり内臓脂肪の蓄積により、生活習慣病が起こりやすくなった状態を、最近では『メタボリックシンドローム』と呼んでいます。

現在日本における成人の約8%がメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)と推定されています。メタボリックシンドロームの定義は、男性はウエスト85センチ以上、女性は90センチ以上で、さらに(1)中性脂肪などの異常(2)高血圧(3)高血糖のうち二項目以上を満たす状態です。それぞれの異常は軽くても、かさなることで動脈硬化を起こしやすくなるといわれています。

■病気の本質は「ピラミッド構造だった

こういわれると、ただでさえ感じられない「五感に感じられない病気」の原因としての「内臓脂肪の蓄積」を私たちはどう理解すればよいのでしょうか。これは一種のピラミッド構造を上から俯瞰していることで例えられましょう。ピラミッドの頂点にある「大きな病気」はわかりやすいがその底辺には高血圧、糖尿病、高脂血症などの疾患があり、そのさらなる底辺には肥満や生活習慣やストレスなどが原因として潜伏しているのです(図一)。

一方、私たちを取り巻く食文化は戦後の高度経済成長で脂肪やたんぱく質の摂取量がおよそ四倍以上も増大し大きく変わってしまいました。そして私たちはそれを「当たり前」として受容してしまっています。さらに社会構造の多様化が個人へのストレスを増加させ、その解消法としての「満腹感を身体活動なしで(いまだとき食料を得るために漁や狩りを始めませんよね)容易に達成できる環境もあります。これが「先生、周りと特別変わったことをしていないのに太り続けます。」と私の診察室で訴えられる普通の人々の姿です。実際に私たちの検診のデータでも高血圧、糖尿病、高脂血症などの疾患のない平均年齢四十八歳の集団で成人後に九割の人が体重増加しており、平均で7.5kgの体重増加があります。

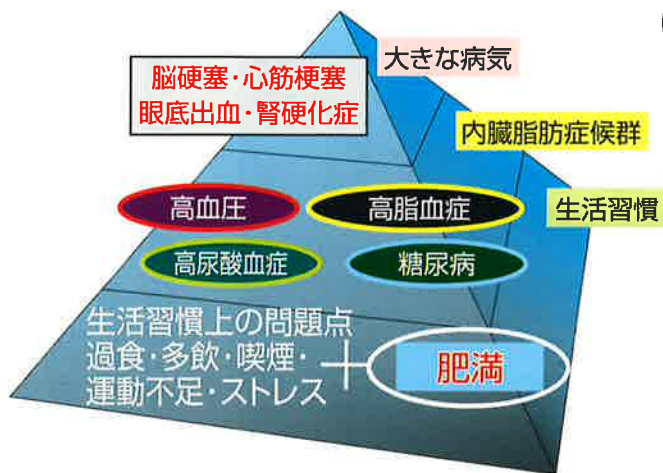
した。

もう一つの問題は世代を跨いだ危機です。小児の肥満が増えていることは文部科学省からも報告されています。ところが指導するはずのおとなが現在の食文化を含めた生活環境を「当たり前」として受容する限り、彼らは成人後次世代に現在の生活環境を同じように伝えていくことになってしまいます。こうして肥満は世代を超えて連鎖していき、ますますメタボリックシンドロームは増加の一途をたどることになりそうです。

このように病気を五感で意識できないこと、経済成長で変化した食文化や身体活動の低下などの生活習慣の変化を感じていないことが私たちにメタボリックシンドロームへの危機感を鈍らせてしまっています。では感じないものを少しでも感じさせる方法は無いのでしょうか。一つの例として、家庭で得ることのできる体重やウエストサイズや家庭血圧の数字を利用することが挙げられます。医療機関で表してもらえる数字(血中の脂質濃度や血糖値や医療機関での血圧)に比べて回数を多く繰り返し意識できる点で有用です。

具体的には「地産地消」「スローフード」など食文化を回帰させる運動を利用して食文化の原点を顧みること、生活習慣の中で身体の活動性を高めること、家庭で得ることのできる体重やウエストサイズをモニタリングす

(図1) 病気のピラミッド構造



ること、そしてこれらの活動を世代を超えて継承していくことが大切です。このピラミッドを崩すには食事療法、運動療法そして行動療法が必要であると云われており、「意識をすること」そして「維持をすること」は永遠の課題であるのかもしれない。

例えば使ったピラミッドですが、古代エジプトのピラミッドに刻まれた言葉は、現在の飽食とそれに伴う医療費増大をすでに当時から暗示していたようです。

「人は食べる量の四分の一で生きている。残りの四分の三は医者が食っている。」
 医者に食われないようにみなさんもお気をつけください。

センター状況と課題

琴浦町シルバー人材センターは、琴浦町誕生と同時に法人化されました。法人化に向け連合会・各方面からのご指導ご協力を受け何とか法人の認可を受けました。事務所は、旧東伯町の事務所を利用し、職員一人、臨職一

琴浦町は、平成十六年九月一日、旧東伯町と旧赤碕町の二町が合併し誕生した、人口二万六千七百七十三人、東西十五km、南北十八km、総面積一三九・八八km平方の町です。観光資源にも恵まれ、山から海に至る美しい自然と貴重な歴史や文化遺産を堪能できる町です。

町名の由来「琴浦」は、かつて琴浦町の海岸一帯が「琴ノ浦(ことのうら)」と呼ばれていたことに由来しています。また、このほかに海岸に寄せては返す波の音が琴を弾いた音のようであったことから「琴ノ浦」と呼ばれるようになったとも云われています。

(社)琴浦町シルバー人材センター

事務局長 近池 誠



人で頑張っています。現在の状況は、会員百六十七名、契約金額は平均四百万円です。センターの事業は、高齢者である会員の知識・技能・経験を生かした就業意欲を、各方面から仕事の需要を受け、高齢者に社会参加の機会と、生きがいの充実・増進に努力し、地域に貢献できる事業であると思っています。

現在、国庫補助団体として仲間入りしましたが、健全なシルバー人材センター事業を運営していくためには、会員の安全就業・安定した財源の確保が第一であり、今後厳しい公的補助の中で、事務比率・会員年会費の見直し等による財源確保や、一般経費の節減等が課題となっていると思います。





理事会を中心とした各委員会の設置をはじめ、各専門委員会の活性化を図り、事務職員の資質の向上と、全会員が事業を運営しているという意識の醸成が必要ではないかと思われまます。

(社)北栄町シルバー人材センター

事務局長 岩 垣 毅

北栄町は、平成十七年十月一日に旧北条町と旧大栄町が鳥取県内では最後に合併して誕生した町です。

北栄町は、北は日本海に面し白砂青松の景色が広がる砂丘地帯があり、南には黒ぼく畑の丘陵地帯が広がる地形で、総面積は五十七・十五平方キロメートル、人口は一万六千八百五十七人(十二月一日現在)です。

新しい町「北栄町」では、豊富な資源と、知名度の「名探偵コナン」、風車をシンボル



とした環境にやさしい町づくりを進めています。

当シルバー人材センターは、行政の合併より一足早い平成十七年一月に(社)北条大栄広域シルバー人材センターとして設立しました。続いて、行政の合併と同時に現在の(社)北栄町シルバー人材センターに衣替えし発足したところです。

現在の会員数は百六十五名、平成十七年十一月末日の受注件数が千百三十五件、契約金額二千九百七十五万円となっています。

シルバー人材センターは、豊かな経験と知識、優れた技術技能を活かしながら生きがいと社会参加の推進を図ることにより、活力あ

る地域社会づくりを目指すものであり、発注者皆様に信頼され活用されるとともに、喜んでいただけるよう心がけています。

当センターの独自事業として、北条中学校一年生を対象に総合学習の一環として稲作り（種蒔きから収穫まで）を会員が中心となつて、ボランティアによる活動を行い交流を続けています。

昨年十二月の収穫祭では、収穫した「もち米」で餅つきをし中学生、会員、そのほか協力いただいた婦人会の皆さんと試食をして収穫を祝いました。

(社)大山町シルバー人材センター

事務局長 安藤 隆博

大山町は平成の大合併に伴い、旧中山町・旧名和町・旧大山町の三町が合併し、新大山町として誕生した町で鳥取県西部に位置し、北は隠岐の島、弓浜半島、島根半島の浮かぶ日本海、南は秀峰大山の北壁を望みロケーションがとてもしばらしい町です。

観光スポットは四季を通じて楽しめる中国地方最高峰の大山、桜の名所の名和公園、花の房が一・五mにもなる藤の木がある住雲寺、八マナス自生地の南限の松河原海岸、美肌の湯で知られる中山温泉などがあります。

特産物は山海田畑の恵みを生かし、梨、りんご、御来屋板わかめ、鮮魚、さざえ、うに、大山そば、などがあり、特にブロッコリーの生産は鳥取県一を誇っています。

人口は約二万人、六〇歳以上が約七千二百人（約三七％）の高齢の町です。

当センターは町合併に伴い、平成十七年四月に新しく(社)大山町シルバー人材センターとして発足したセンターで、現在の会員は一七四名（平均年齢六九歳）です。主な就業は草刈、除草、公共施設管理、障子・襖・網戸の張替え、公共のバス運転、学校給食の配送、経理事務、育苗作業などで、契約金額は

約三千六百万円（平成十六年度）です。

最近農家の後継者不足により、センターに管理（畦草刈・耕運）を依頼される高齢者の方が増加傾向にあり、感謝を載いておりますが、何か農業の未来に寂しいものを感じるところでもあります。

今後の課題として、会員の増員、安全就業対策、適正就業者対策、適正財務確保、団塊世代退職者の受け皿づくりなどがありますが、行政・地域社会、連合会様のご鞭撻・ご支援・ご理解を賜りながら、会員・理事・職員一丸となり解決していきたいと思っております。



安全だより

安全・適正就業を

進めるために！



(社)倉吉市シルバー
人材センター
事務局長 中林正樹

新年を迎え、特に本年は、センター事業運営の基本となる安全・適正就業を進め、事故ゼロを目指して参りたいと考えています。

会員の皆さんは、就業における安全の重要性を理解していない人は一人もいません。しかしながら、「分かっている」だけでは、事故を防ぐことはできません。「分かっていること」を日常の仕事の中で具体的な形で実行に移すことが、事故防止にとって大切なことだと思っています。

事故は、会員が実際に仕事を行っている就業場所や就業途上で起こります。しかも、それらの場所の環境やそこで行われる仕事の内容などは絶えず変化し、その変化の中から安全上の新たな問題やそれまでなかったような災害要因が芽を出すことがあります。これらについて、その都度、迅速かつ適切に必要な

手を打ってこそ事故防止の実をあげることができます。

そのためには、就業環境や作業方法が適正であるかどうかを絶えず自己点検し、思い違い、手抜きなどを改めなくてはなりません。往々にして、「センター任せ」「発注者任せ」になりがちです。特に、慣れた仕事での事故発生の可能性に留意し、改めるところは、センターや仕事の発注先ともよく相談しながら改善し、会員に対し、「この仕事は、自分が一番詳しいんだ。だから、自分が考えなければ安全対策はできない」という考え方になるまで、嫌われても、口うるさく指導して行きたいと考えています。

会員の広場

家事サービス班の仕事



(社)境港市シルバー
人材センター
家事サービス班
庄司 國子

多忙な一年でした。まずは健康に恵まれ、依頼された仕事を無事クリア出来た事に感謝

しています。仕事を終え「御苦労様、又御願いな」と笑顔で見送りを受け、帰宅途中にふつと湧き出る充実感と爽やかな心地良さを何度味わった事でしょう。要介護の必要な方々が、家事サービス班に協力を求めているつしやいます。縁あってこの仕事を始めて六年余りになりますが、最初はコツが掴めず、失敗も数知れず、へこんだ時期もありました。仕事の流れを良くするため、自分流のルールを作りました。まずは明るく元気な挨拶、時間厳守、依頼主の要望をじっくり聞き、手早く片づけること、そして笑顔忘れぬ様に…。依頼主の方と心が一つになった時の喜びは、ひとしおです。疲れもふっ飛んでしまいます。いずれ私も辿る道と人生の先輩の方々の苦勞話を聞いたり、四方山話に花が咲きます。薄茶で一服するのを楽しみに待って下さる○○さん、おしゃべり優先の○○さん、学ぶ事の多い方々ばかりです。シルバー人材を通じて、新しいお友達も増え、旅行カラオケ大会、介護講習等、出来る限り参加し、楽しみながら学んでおります。本年も健康第一、そして一日一日を大切にして、この仕事を続けて行きたいと思えます。

皆様の御協力と御支援、有難うございました。



講習会に参加して

介護講習(二級)を終えて



(鳥取会場)
鳥取市

佐々木敏一

私が介護講習(二級)の養成講座を知ったのは、家庭・援助サービスタブとして男性介護研修会に出席した時でした。

丁度私の父も九十二才と高年令がゆえに母・妻とも死別して、いつかは介護が必要となる年頃、又高年令時代を迎え、介護に関する知識、技能等を習得しておけば何かの役に立てると思ひ応募しました。

応募したものの年令制限六十四才に近い六十三才で選考されるかどうか通知が来るまで不安でしたが、運よく願望がかなってひと安心しました。

開講式に鳥取県シルバー人材センター連合会より四十数名の応募の中から選考されたと聞き、最後まで頑張つて目標を達成しなくてはと身の引き締まる思いでした。

介護講習も昨年までは、「二級」を取得して「二級」へと二段でしたが、本年は「二級」

のみの受講で、テキストも充実して判りやすく大変好評でした。

又昨年は、男性六名でしたが、本年は二名で女性に圧倒される思いでしたが、日々信頼関係も出来、介護技術習熟にモデル役になったりして役立ちました。

高令化が急速に進展し、福祉・介護保険制度も次々と見直しされる中で、専門分野の各講師によるテキスト・ビデオでの講義や実技を判りやすく教えていただき、理解を深めることが出来ましたが、だんだん内容も基礎知識から介護技術部分に進んで来ると不安感が増してきました。

特に身体清拭、口腔ケア、排泄、尿失禁、入浴、食事介護等になると介護の大変さ、色々と障害を持った利用者の対応を考えれば、益々不安になり、重苦しい雰囲気の中で二日間介護実習を行いました。

福祉・介護と言えば、華やかな職場、仕事の様に見えますが、現実の介護現場は、脳裏に焼きついて忘れられない体験をしたり、見たりして大変だなあと痛感させられました。

ホームヘルプ同行訪問は、家事援助の料理作り、トイレ・寝室の掃除でしたが、デイサービスについては、利用者とのコミュニケーションが主体で、最初何を話題にして切っ掛け作りをするか迷いました。まず、私の父や母、妻の死亡を皮切りに孫や子供、人生経験、

昔の頃の思い出話等、利用者が関心を持ちそうな話題を引き出し信頼関係を作つて、結構コミュニケーションを取ることが出来ました。講習会場も四ヶ所点々したり、講義、実習内容も充実して厳しい日々でしたが、講習を受けた十八名の皆さんと共に無事終了することが出来、何よりもうれしいことでした。

介護講習を受講したおかげで、よい社会勉強させていただき、再就職に父親に地域の活躍に生かして行きたいと思っています。

何と言つても健康が第一です。この間で協力載いた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



植栽管理講習を受講して



(米子会場)

米子市

本池 学

我家に山桃、モチの木、モッコク等が嫁いで来たのは七年前の秋、その条件は姿が美しい事はもちろん、手入れが簡単な事でした。友人の言葉により雑木はトリマーで刈り込むだけで良いとのことであり、私は毎年我流で剪定のまね事の手入れを行っていました。

ところが近年では、あの美しい姿の木々は家内の体型に負けず劣らずの樹形になってしまいました。

今年は何んとか本来の姿にと考えていた、そんな日の朝、新聞よりシルバー人材センター植栽管理講習の受講者募集の記事が目につき、これぞと思い、さっそく申し込みました。初日はビデオによる視聴覚教育、二日目か

らは成実小学校で松、雑木の剪定の実習が始まりました。

講師より、落葉樹は休眠中に、花木は花が散った頃に芽の位置を見て剪定するように、雑木等も松の木の剪定と同じように、大枝を切って中をすかす、「強きをくじき、弱きを助ける」等のインパクトの強い冗談を交えたご指導をいただきました。

実習の終了後、自宅に着くなり、さっそくマキの木で復習を兼ねて剪定の開始です。それを見ていた家内が一言、今までの剪定と違って樹全体がすっきりとして、見ていて気持ちが悪くと言ってくれました。

これからも我家の庭の木で練習を行い、腕を磨いて行きたいと思います。

そして、公民館等で剪定を行っておられる地元のボランティアグループの仲間に入れていただき、この講習で習得した事を少しでも生かせればと考えています。

ほんとうにありがとうございました。



竹炭製造講習会を 受講して



(倉吉会場)

倉吉市

野田 敦

昨年十二月五日から二十四日まで七日間、鳥取県シルバー人材センター連合会主催による、竹炭製造技能講習会（倉吉会場）を受講いたしました。

参加人数は十五名で遠路鳥取市（三名）、八頭郡（二名）からの参加者があり、本当にご苦労さまでした。

第一日目は開講式、人権学習、座学「竹炭が出来るまで」の講義（八頭郡、林講師）を受講する。

第二日目から現地研修で当センター常設の倉吉市岩倉作業所に於いて、現地講習で実技と実習を並行して受講し、窯に材料準備、窯の火入れ、窯燃焼管理、竹酢液採取、窯出し、製品選別など他にも大変多くの工程、管理があることを再認識する。特に製品の品質を直接左右する程の温度管理が如何に大切で最重要であることを、実技と実習をすることにより実感いたしました。

炭化温度、精錬度、硬度と排煙温度の相互



関係を実習して、温度管理をする際に排煙口からの温度と煙色との関係をより多く経験など習得する必要も痛感いたしました。今回の講習は私どもは初めての受講で、興味深く有益な七日間であったことを感謝いたします。今後、竹炭、竹酢液など竹製品（工芸品、実用日用品、庭園々芸用品、食品、燃料、繊維品、紙製品、楽器、植物の有用菌の培養品）等が、用途別に見合った付加価値をつけるこ



とで、環境にも優しい竹材であることを再認識をした次第です。

なお、先日のニュースによれば、地方自治体（山口県）でも竹製品のブランド化を計画しておられるとのこと、無尽の資源である竹林が時として邪魔もの扱われる竹林も資源として大いに広範に有効利用されることを期待いたします。

講習では、皆さん意欲的に取り組んでおられて、豊富な経験、知識と持ち前のユーモアで良い雰囲気の中で、有意義な受講が出来たことを感謝し、幸いに思っております。

皆さんがこの実習で習得されたことを活かされて、活躍されることを期待いたします。又講習に際して連合会と講師諸氏のご指導をいただいたことを有難くお礼申し上げます。

●鳥取県の最低賃金●

最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することは出来ません。

◎鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される



**鳥取県最低賃金
(1時間 612円)**

◎鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される



**鳥取県電気機械器具、情報通信機械器具、電子部品
・デバイス製造業最低賃金(1時間 711円)**



**鳥取県各種商品小売業最低賃金
(1時間 683円)**

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ねください。

鳥取労働局賃金室 電話(0857)29-1705
米子労働基準監督署 電話(0859)34-2231

鳥取労働基準監督署 電話(0857)24-3211
倉吉労働基準監督署 電話(0858)22-6274

※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。



公益法人会計基準が改正されます

公益法人会計基準が改正され、シルバー人材センターでも平成18年度からこの基準が適用されることとなります。

<p>基本的な考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広く一般的に用いられている企業会計の手法を可能な限り導入し、公益法人のディスクロージャー（財務情報の透明化）を充実させるとともに、事業の効率性を分かりやすく表示 ○寄付者、会員等の資金提供者の意思に沿った事業運営状況を会計上明らかにすることにより、法人の受託責任を明確化 ○公益法人の自立的な運営を尊重するとともに、外部報告目的の財務諸表を簡素化 					
<p>主な改正事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○財務諸表の体系の見直し（収支予算書及び収支決算書は会計基準の範囲外とする。大規模法人についてはキャッシュ・フロー計算書を追加） ○正味財産の2区分化（指定正味財産と一般正味財産） ○正味財産増減計算書をフロー式に統一 					
<p>作成書類の変更</p>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">【現 行】</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">【改正後】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">「計算書類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">→</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 10px; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">「財務諸表」</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 キャッシュ・フロー計算書（大規模法人に限る） <p style="text-align: center;">「内部管理事項」 → 会計基準外</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書 </td> </tr> </tbody> </table>	【現 行】	【改正後】	<p style="text-align: center;">「計算書類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 	→	<p style="text-align: center;">「財務諸表」</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 キャッシュ・フロー計算書（大規模法人に限る） <p style="text-align: center;">「内部管理事項」 → 会計基準外</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書
【現 行】	【改正後】					
<p style="text-align: center;">「計算書類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 	→	<p style="text-align: center;">「財務諸表」</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表 正味財産増減計画書 財産目録 キャッシュ・フロー計算書（大規模法人に限る） <p style="text-align: center;">「内部管理事項」 → 会計基準外</p> <ul style="list-style-type: none"> 収支予算書 会計帳簿 収支計算書 				
<p>準備事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇規程類の改定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定款の変更、財務規程の改正 ◇勘定科目の設定・整理及び平成18年度予算書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正味財産増減科目、貸借対照表科目及び収支予算科目の設定・整理を行った上で、平成18年度予算書を作成 ◇貸借対照表科目残高の整理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年3月31日現在の貸借対照表科目の残高確認 ・ 貸借対照表期首残高の時価の確認 ◇減価償却資産の期首残高の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 減価償却資産の貸借対照表価額を直接法に変更 ・ 減価償却資産の帳簿残高の再確認 ◇固定資産（特定積立預金等）の記載方法の変更 <ul style="list-style-type: none"> ・ その他固定資産を「特定資産」（特定積立預金等）と「その他固定資産」に分けて記載 ◇関連当事者との取引の内容確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連当事者との取引の有無を確認する 					

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

(平成18年1月1日現在)

名 称	〒	所 在 地	電 話	F A X	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0823	鳥取市幸町73	0857-22-0050	0857-22-0051	歳岡輝巳
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	野島 完
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-17	0859-47-4540	0859-47-4541	足立郁馬
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	中川正昭
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	石谷文一
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	谷口幹彦
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	磯江末夫
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1004	足立慎夫
(社)北栄町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220	0858-36-6227	岸田忠良
(社)大山町シルバー人材センター	689-3111	西伯郡大山町赤坂764	0858-49-3012	0858-49-3013	林原彦一
八頭町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-0021	0858-72-2793	村田敏雄
江府町シルバー人材センター	689-4401	日野郡江府町江尾502	0859-75-3211	0859-75-3211	宇田川 潔
日野町シルバー人材センター	689-5131	日野郡日野町黒坂1247-1	0859-74-0870	0859-74-0338	牧 智也
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-0223	大下 勇
三朝町シルバー人材センター	682-0121	東伯郡三朝町大瀬999-2	0858-43-1111	0858-43-0647	西村武津美

あとがき

あけましておめでとうございます。
 昨年末、日本の人口が予測より一年早く減少に転じることが報じられましたが、鳥取県においては数年前から既に減少傾向にあり、郡部の人口は激減しております。

今後予測されることは、地域間・県間の人口移動が更に進み、基幹労働力が大都市等に集中することも懸念されます。「自主・自立・共働・共助」を基本理念とし、元気な高齢者が「福祉の受け手から社会の担い手へ」なることをめざして活動するシルバー事業の役割はますます重要となっております。

各理事長さんの抱負で触れておられますように、シルバー事業も多くの課題を抱えています。

会員並びに関係の皆様方の一層のご理解、ご支援をお願いいたしますとともに、皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

会報 鳥 取 第14号
 平成18年1月1日 発行

発 行：社団法人 鳥取県シルバー
 人材センター連合会
 所在地：〒683-0812
 鳥取県米子市角盤町1丁目76番地
 電 話：0859-37-2531
 F A X：0859-37-2537

印 刷：(株)ニシキ印刷
 鳥取県米子市灘町3-150
 電 話：0859-32-2250